

鹿角消防救助隊

消防救助技術大会の概要

一般財団法人全国消防協会では、昭和47年から毎年、全国消防救助技術大会（以下「全国大会」という。）を開催しています。

この全国大会は、救助技術の高度化に必要な基本的要素を練磨することを通じて、消防救助活動に不可欠な体力、精神力、技術力を養うとともに、全国の消防救助隊員が一同に会し、競い、学ぶことを通じて、他の模範となる消防救助隊員を育成し、全国市民の消防に寄せる期待に力強く応えることを目的としています。

令和5年度競技救助訓練日程

令和5年	5月12日（金）	第51回消防救助技術秋田県大会（水上の部） 署内選考会
令和5年	5月30日（火）	第51回消防救助技術秋田県大会（陸上の部） 署内選考会
令和5年	6月19日（月）	第51回消防救助技術秋田県大会（陸上の部） 消防長査閲
令和5年	6月30日（金）	第51回消防救助技術秋田県大会（水上の部） （秋田県立総合プール）
令和5年	7月4日（火）	第51回消防救助技術秋田県大会（陸上の部） （秋田県消防学校）
令和5年	7月19日（水）	第51回東北地区支部消防救助技術指導会（水上の部） （宮城県利府町）
令和5年	7月26日（水）	第51回東北地区支部消防救助技術指導会（陸上の部） （山形県鶴岡市）
令和5年	8月25日（金）	第51回全国消防救助技術大会 （北海道札幌市）

※令和5年度は東北大会及び全国大会への出場隊はありませんでした。

訓練種目 陸上の部

全国消防救助技術大会で行う訓練は、陸上の部と水上の部に分かれており、それぞれの部に隊員ひとりひとりが基本的な技能を練磨する「基礎訓練」と、隊員個人の技能とともに隊員間の連携を練磨する「連携訓練」、さらに、使用する器材や訓練要領等を定めず出場隊員の創意工夫のもと訓練想定から救助方法までを披露する「技術訓練」があります。

訓練の内容は次のとおりです。（当本部実施種目）



はしご登はん（基礎）・・・標準所要時間 24 秒

自己確保の命綱を結索した後、垂直はしごを15メートル登はんする。災害建物への進入等、消防活動には欠かせない訓練です。



ロープブリッジ渡過（基礎）・・・標準所要時間 28 秒

水平に展張された渡過ロープ 20メートル（往復 40メートル）を、往路はセーラー渡過、復路はモンキー渡過するロープ渡過の基本的な訓練です。



ほふく救出（連携）・・・標準所要時間 1分2秒

3人1組（要救助者を含む）で、1人が空気呼吸器を着装して長さ8メートルの煙道内を検索し、要救助者を屋外に救出した後、安全地点まで搬送する。ビルや地下街等で煙に巻かれた人を救出するための訓練です。



ロープブリッジ救出（連携）・・・標準所要時間 1分15秒

4人1組（要救助者を含む）で、2人が水平に展張された渡過ロープ（20メートル）により対面する塔上へ進入し、要救助者を救出ロープに吊り下げてけん引して救出した後、脱出する。要救助者を隣の建物等から進入し、救出することを想定した訓練です。



引揚救助（連携）・・・標準所要時間 2分9秒

5人1組（要救助者を含む）で2人が空気呼吸器を着装して塔上から塔下へ降下し、検索後、要救助者を塔下へ搬送し、4人で協力して塔上へ救出した後、ロープ登はんにより脱出する。地下やマンホール等での災害を想定した訓練です。



訓練種目 水上の部

複合検索（基礎）・・・標準所要時間 40 秒

マスク、スノーケル、フィンを装着し、スノーケリングで障害物（救命浮環）を突破しながら水中に沈められたリングを検索して、引き揚げる。水中の行方不明者の捜索を想定した訓練です。



溺者救助（連携）・・・標準所要時間 43 秒

3人1組（要救助者を含む）で救助者と補助者の2人が協力し浮環にロープを結着後、補助者が投下した浮環を救助者が25メートル先の要救助者まで搬送する。浮環に要救助者をつかまらせ、補助者がロープをたぐり寄せて救助する訓練です。



